



## 1 全国のパラレルキャリア診断士

コロナウイルスの蔓延は、まだまだ予断を許しません。以前のように出張や旅行ができるようになるには、もう少し時間がかかりそうです。

そこで、今回は誌面上で日本全国を行脚し、各地のパラレルキャリア診断士を訪ねてみたいと思います。

「パラレルキャリア」とは何か。改めて説明します。

本来、キャリアとは、就職・出世・現在の仕事等の結果を指す言葉ではなく、働くことに関わる「継続的なプロセス（過程）」と、働くことにつながる「生き方」そのものを指しています。

パラレルキャリアとは、経営学者P.F. ドラッカーが著書『明日を支配するもの』の中で、これからの社会での働き方・生き方について提唱した考え方です。そこでは、「本業を持ちながら、第二のキャリアを形成すること」としています。

ドラッカーは、世界的に平均寿命が延びたことで、人間のほうが組織よりも長命であることが珍しくなくなり、先行きが不透明な世の中では所属する組織に頼らなくても大丈夫なようにスキルを磨くことが重要だと述べています。

ここで言う「第二のキャリア」とは、職業に限らず、プロボノなどのボランティア活動やNPO法人での活動も含まれます。その目的は収入だけではなく、個人のスキルアップや将来への自己投資、自身の夢の実現などに重きを置いて働くことだとしています。

昨年、本誌11月号でパラレルキャリアの特集「2020年 診断士パラレルキャリア事情」を組んだ際、副業とパラレルキャリアの違いを以下のよう

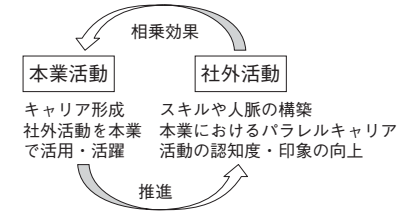
図表1 副業とパラレルキャリア

項目	特徴
副業	メインの仕事を持ちながら、その余力で主に収入増を目的として行う仕事
パラレルキャリア	複数の仕事を並行し「第二・第三のキャリア」として、収入増だけでなく、スキルアップや夢の実現を目的に行う仕事。

筆者作成

さらに「並行」してキャリアを進めていくことで、お互いの活動に相乗効果を発揮しやすいという調査結果もあります（図表2）。

図表2 パラレルキャリアの相乗効果



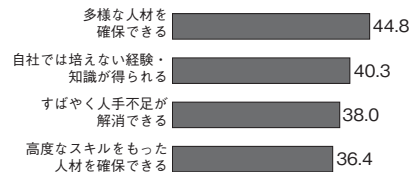
出所：三井栄、今永典秀「パラレルキャリア活動とキャリア形成に関する考察」（2019）

## 2 働き方の自由度と流動性

最近、「人生100年時代」とよく言われます。日本人の平均寿命は男女とも過去最高を更新し（男性81.64歳／女性87.74歳）、日常生活に制限のない期間の平均「健康寿命」も、男女とも70歳を超えました。一方で、商品やサービスは速いスピードで流れ、「法人」の平均寿命は規模により差はあるものの30年前後が通例となっているようです。

コロナ禍でリモートワーク環境やWeb会議システムが急速に普及し、「働き方の自由度」は格段に向上しました。兼業・副業を容認する大企業が増える中、その人材を受け入れる企業もベンチャー企業や中小企業ばかりでなく、大企業もそのメリットを実感し、「働き方の流動性」は今後ますます高くなると考えられます（図表3）

図表3 兼業・副業として働きたい人を受け入れるメリット（単位：%）



出所：株式会社リクルートキャリア「兼業・副業に対する企業の意識調査」（2019）

法改正によって、企業は70歳までの就業確保が努力義務になりました。その一方で、経済的に自立することで、早期にリタイアし、自由に生きる生き方「FIRE」（Financial Independence Retire Early）も注目されています。

中小企業診断士の属性についても、これまでは「企業内診断士 or 独立診断士（プロコン）」のような比較が多かったと思います。しかし、これからは「企業の従業員 and 経営者」、「経営コンサルタント and 企業のプロジェクト・マネジャー」など、多様な組み合わせになっていくのではないのでしょうか。

## 3 パラレルキャリア診断士の多様性

本特集は当初、「それぞれの地域特性を生かした分野で活動」をしている全国のパラレルキャリア診断士を紹介するというイメージを描いていました。

しかし、企画を進めていく過程で、パラレルキャリア診断士は思っていたよりも、ずっと多様だということがわかりました。

ある診断士は兼業禁止の企業に勤めながら、診断士としての実践的なキャリアをどのように積む機会を得たのか。また、ある診断士は自身が中小企業の経営者として事業を営む傍ら、診断士の資格を融合させて、どのように生かしているのか。

今回の特集では、すでに会社員、個人事業主、診断士とそれぞれの立場でパラレルキャリアの活動をしている人もいれば、将来のパラレルキャリア診断士を目指して、地元でUターンして活動を始めたばかりという人も登場します。

そのような多様なパラレルキャリア診断士の事例の中には、きっと読者の皆さんが求めるパターンがあると思います。

それでは、各地の診断士たちに会いに行きましょう。